

刑 法

注 意 事 項

- I 試験開始の指示があるまで問題用紙を開いてはいけません。
- II 解答用紙は 1 枚だけ配付します。
- III 解答にあたっては、黒のボールペン・黒インクのペンのいずれかを使用してください（ただし、インクがプラスチック消しゴムで消せないものに限ります）。それ以外で解答用紙に記入した場合は、無効とします。
- IV 解答を訂正するときは、訂正部分が数行にわたる場合は斜線で、1 行の場合には横線で消して、その次に書き直してください。修正液・修正テープを使用してはいけません。
- V 設問が複数の場合は、解答用紙に設問番号を明記したうえで、解答してください。設問番号の記入がない場合は、無効とします。
- VI 試験時間は 60 分です。
- VII 問題は 1 ページにあります。

刑 法

XとYは、職もなく生活に窮したため、二人の近所に住む一人暮らしの老人Z宅に忍び込んで窃盗を働き、万が一Zに発見されたときは、脅迫を加えて金品を得ることも辞さない旨を共謀した。犯行当日、Xはドライバー、金づち等の窃盗のための道具、模造拳銃、登山ナイフ（刃体約14.5cm）をバッグに詰めて、Yとの待ち合わせ場所に向かったが、一人暮らしで身よりのないZのことが気の毒になり、Yに携帯電話で連絡をとり、「やっぱやめよう。お前も家に帰れよ」と一方的に告げた後、自分の家に戻ってそのまま寝てしまった。

Xから連絡を受けたYは、不満に思いながらも、独りでも窃盗を行おう決意してZ宅に赴き、無施錠の掃き出し窓から侵入し、居間で現金の入った財布等を窃取し、誰からも発見、追跡されることなく、近所にある自宅に戻った。

すぐにYは、自宅で盗んだ現金を数えたが、1万円余りしかなかったため、再度Z宅に盗みに入ることにし、約10分から15分後、Z宅の敷地内に入ったところ、帰宅して泥棒に入られたことに気づいたZに発見されてしまった。そこで、逮捕を免れるために、「お前殴られたいのか」と言いつつ、手拳を前に突き出し、足をけり上げる動作をしながらZに近づいた。体格のいい若者であるYにそのような動作で詰め寄られたZは、驚いてバランスを崩して頭から転倒した。Zの脳には高度の病変があり、軽度の衝撃でも死に至る状態にあったため、Zは死亡した。なお、この病変については、Z本人もかかりつけの医師も気づいてないものであった。

XとYの罪責について論じなさい。